

平成 31 年度沖縄県認知症支援推進事業
若年性認知症支援者研修会 北部地区開催 報告書

1. 研修会名：「平成 31 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業 若年性認知症支援者研修会」
2. 目的：若年性認知症の一人ひとりが、その状態に応じた適切な支援が受けられることを目的とする。
3. 主催：沖縄県（受託 特定医療法人アガペ会）、 共催：認知症疾患医療センター
4. 対象：若年性認知症の初期対応相談窓口職員（市町村役場担当窓口職員・地域包括支援センター職員・認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援チーム員・介護支援専門員・医療機関相談員・介護保険事業所の相談員など）を対象とする。
5. 方法：平成30年度作成 本人・家族のための若年性認知症支援ハンドブック第二版（沖縄県）並びに支援者のための若年性認知症支援ガイドブック（沖縄県）をテキストとして配布し、支援内容について沖縄県若年性認知症支援コーディネーターが説明を行う。
6. 開催地区並びに開催日、会場について

開催地区	開催日及び時間	会場と定員
本島北部地区	2019年4月19日（金） 14時～16時（受付13:50から）	名護中央公民館 2階 小ホール 定員60名（名護市港2丁目1-1）

7. 参加費：無料
8. 申し込み方法：専用申し込み用紙あり。用紙のない方は、開催地区を明記したうえで、氏名、所属先、連絡先を記入しFAX（098-943-4702）まで。
申し込み期間：平成31年4/1～各地開催日の前日まで。先着順とした。
9. テキスト：当日配布。
10. プログラム

司会進行・講師：若年性認知症支援コーディネーター

内容：ハンドブック、ガイドブックに沿って説明し、注意事項を伝達する。

1	県の現状	10分	はじめに、頁説明
2	医療	20分	気づき、診断されたら、医療との連携、病態について
3	仕事	15分	仕事について
4	制度	40分	利用できる制度について、障害者福祉制度、介護保険
5	子ども・車・生活	15分	子どもの支援、車の運転について、生活について、これからのこと
6	相談窓口	10分	交流会、家族会の紹介、相談窓口、資料について

11. 広報

2019年4月1日 北部圏域へ認知症疾患医療センター宮里病院より発信
県高齢福祉課発信：FAXにて県内資料福祉関係期間

12. 事前申し込み状況 申し込み者 67名（内7名は定員オーバーとしてお断りした）

13. 当日の様子 当日参加者数 47名

内訳：医療1名、介護保険事業所38名、行政2名、包括6名
運営：疾患センター3名（宮里病院2名、琉大1名）

1 4. 内容（特にお伝えしたこと）

相談対応の現状に対応した項目となっており、各内容については、ワーキングチームによる見解並びに確認作業によって完成されたことをお伝えした。

1	県の現状	ガイドブック P1 を読み上げる。若年性認知症支援コーディネーターの支援始まり、単身者が多い現状と、それに伴い介護者も高齢で支援が必要な状況であったことなどを説明。手続きの詳細など情報も必要となり、今回の支援者向けガイドブック作成に至ったことを説明。
2	医療	物忘れ＝認知症ではない。内科疾患も多い。気づき方は様々であるが、MC I も診断される。支援者の自己判断ではなく、エピソードをしっかりとめ、医療へ繋ぐことが望ましい。医療との連携で、かかりつけ医への相談後、鑑別診断が必要な場合には、認知症疾患医療センターへ相談という手続きを説明。認知症疾患医療センターへの繋ぎ方や鑑別診断に伴う費用についても事前に尋ねることも助言が必要。経済的課題による医療離れがあることを支援者は認識してほしい。ガイドブック P5 の疑いチェックリストの紹介。ワンストップとして設置された若年性認知症相談窓口の紹介。若年性認知症支援コーディネーター役割の説明。
3	仕事	ガイドブック P25 表を説明し、若年性認知症の人の働き方について説明。職場との調整方法並びに話し合う内容について、P26 チェックリストの活用を紹介。治療と仕事の両立支援について説明。
4	制度	働き方の見直しに伴い減収するため、制度を駆使することは必須。まず自立支援を活用し、できれば同時に精神障害者保健福祉手帳の活用が初期対応として理想。手帳の優遇措置とその活用を説明。ガイドブック P18 その他の制度について説明。傷病手当金、障害年金について仕組みを説明。併給調整のリスクを把握し説明することが求められる。いきなり介護保険でない。障害者総合支援法を活用し、働く意識を継続することも重要。特に平成 30 年度新設の自立生活支援の展望について紹介。介護保険については最近の傾向である暫定のリスク、ガイドブック P32 の有償ボランティアについて、社会参加活動であることの説明。障害者総合支援法と介護保険の併用と、移行時期の見極めについて今後の課題を伝える。
5	子ども・車・生活・財産	子どもの支援について、親の手帳で奨学金申請へ影響ある。奨学金については常に創設の動きあり、状勢をチェックしてほしい。車の運転：認知症診断、認知症薬開始と法制度の説明。認知症者の運転技術、車輛保険加入確認の必要性を説明。生活について、これからのことについて本人への指導として、ハンドブック P25～P28 活用を紹介。財産管理についてガイドブック P39 を読み合わせ。
6	相談窓口	交流会、家族会の紹介、相談窓口、資料について説明

（質疑応答）

各項目に区切り、質問を伺ったが、参加者からの質疑は本日なかった。疑問や不明な点があれば、後日、電話で対応しますとお伝えした。

15. アンケート結果： 回答 30名 回収率 63.8%

問：ハンドブック・ガイドブックの内容（仕上がり具合）について教えてください

	大変良い	良い	ふつう	悪い	大変悪い	無記名
ハンドブック	66.7%	30%	0%	0%	0%	3.3%
ガイドブック	70%	26.7%	0%	0%	0%	3.3%

問 ハンドブック・ガイドブックの次回の改定時に掲載が必要と思われることについて教えてください。

ハンドブックについて：

- ・手立てがすぐわかる図が多いほうが使いやすそうに思う
- ・挟み込みでも構いませんので、県で若年性認知症の方の当事者のグループの活動紹介などを載せて頂きだけでも有り難いなと思いました。北部ではまだまだ資源がないため、支援者としてももっと知りたいです。

ガイドブックについて：

- ・生活習慣と認知症との関連をもう少し掲載したらいいよ思う（高血圧・CM）

感想：

- ・今後、ためになりそうなガイドブックです。
- ・活用します。
- ・仕事面で活かして行きたいと思います。
- ・大変わかりやすい内容でした。
- ・参考にしていきたい。

16. 主催者の所感

各地域より、相談対応者が参加されていた。職種としては、介護保険事業所の介護支援相談員が主であったが、熱心に聴講されていた。アンケート結果からも、今後さらにガイドブックの活用が見込まれる結果であった。ハンドブック・ガイドブックの内容をお伝えすることで、若年性認知症者の現状とその対応について、お伝えすることができたのではないかと思われた。

以上